

子宮筋腫について

大泉News Paper
No.67
2012.07.01 発行

子宮筋腫は出産適齢年齢の女性の20%~50%に超音波検査で指摘されており、過多月経(月経量が多いこと)、月経痛やお腹の張りなどの症状があり診断される場合と、本人にはまったく症状がなく偶然に検査で発見される場合があります。

筋腫と不妊について

子宮筋腫があると必ず不妊になるということでは決してありません。

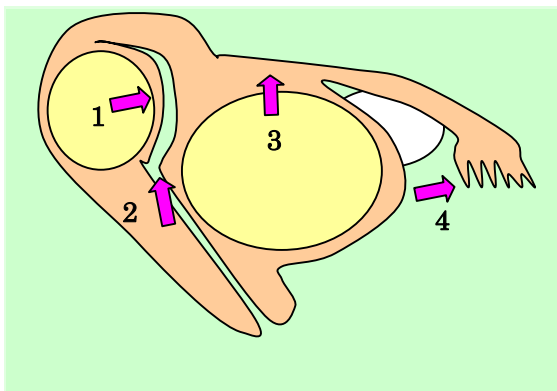
子宮筋腫が不妊の原因になっているかという問題は、大きさや数、位置の影響もあるため一概に言うことは難しそうです。

他に原因のない不妊症患者さんの受診後の経過を追ったところ、筋腫があつて経過を見た方、筋腫が見られなかった方の妊娠率は11%と25%と筋腫を認められた方は妊娠率が低かったのですが、筋腫を核出すると42%が自然に妊娠したと報告されています。

我々の研究でも筋腫核出後の約半数の方は自然に1年以内に妊娠することより、子宮筋腫は不妊の原因の一つであると考えています。

また、体外受精への影響はどうかというと、子宮内腔(着床する所)が圧迫されていなければ妊娠率に影響がないという報告もありますが、一方、5cm以上の筋腫があつた場合はIVF成功率がより低いことを報告している論文もあります。

筋腫が妊娠率に悪影響を及ぼすかもしれないメカニズムは次のように考えられます。



1. 子宮内腔を圧排することによる着床の妨げ
 2. 精子の侵入、運動の妨げ
 3. 卵管の圧排による卵管閉鎖、胚輸送の妨げ
 4. 筋腫が邪魔をして排卵した卵子を卵管が拾いに行けない
- などです。

筋腫と妊娠について

先ほど述べたように子宮筋腫があつても妊娠する方はおり、妊婦さんの2.7%~12.6%で観察されます。

しばしば、妊娠中の性ステロイドのハイ・レベルが子宮の筋腫の成長を促進することは示唆され

ましたが、そのような成長が通常妊娠初期に生じます。また、ホルモンに影響して成長、退縮をするため、妊娠経過中および産褥期(分娩後)に炎症、痛み、感染を引き起こすことがあります。

総合して統計をとると筋腫は胎向異常が2.9倍、帝王切開が3.7倍、早期産が1.5倍と妊娠中さまざまな状況で不利になる可能性が報告されました。

また、筋腫摘出を経験した1,941人の女性の妊娠経過調査は、筋腫摘出前に41%自然流産に終わったと患者さんに対して筋腫を摘出することにより、術後の自然流産率が19%と改善されることが報告されています。

以上の2つの研究により、筋腫の特定の大きさや位置が妊娠中の結果にとっても重要であることが示唆されました。

以上より、我々の施設で、現時点で子宮筋腫に対して手術を勧める適応は次のようになります。

子宮筋腫核出術の適応

- 1) 過多月経や圧迫症状を有するもの
- 2) 内腔の拡大、変形をきたしているもの
- 3) 卵管の圧排、変異が予想されるもの
- 4) ほかに不妊原因がない5cm以上の筋腫
- 5) 妊娠経過にも悪影響を与えると思われる筋腫

手術の方法は子宮の内側に育っている粘膜下筋腫の場合には子宮鏡手術で可能ですし、多くの場合は腹腔鏡手術により子宮筋腫を取ることが可能です。

子宮鏡手術: 細い内視鏡を子宮の入り口より挿入して病変を切除します。

腹部への傷が無く体への負担後少ない手術となります。

腹腔鏡手術: 腹部に細い棒状の器具が入る穴を数か所開けることにより大きな筋腫や複数の筋腫を核出し子宮を修復することが可能です。

開腹手術に比べて術後の癒着が少なく、妊娠しやすさの維持に重要であると考えられます。

ぜひ現在の状態について確認したい、どうすればいいか判断したい、とお考えの方はお気軽にご相談ください。